

ねじりはちまき

3月 啓蟄 春分の日になりました。

3月3日節句、ひな祭りですね。5日啓蟄、17日初午、20日春分の日で彼岸の中日、お墓参りです。

ひな祭りはひな人形を飾り、親類や親しい友人などを招いて女の子の成長を祝う行事です。ひな祭りにひな人形を飾って祝うようになったのは、室町時代からといわれています。当時は貴族や武家などの上流社会や、京都といった1部の都市だけで行われていました。江戸時代になると5節句のひとつに定められていたこともあり庶民の間でも広く行われるようになりました。おひな様の1夜飾りは縁起が悪いとされております。ひな祭りの1週間から10日前辺りに飾り始めるのが一般的とされています。

今年の干支（甲辰）と九星の（三碧木星）が重なる特別な年で、金運が大木のように育ち、その金運を天から降臨する龍が人々に授ける年といわれています。今年は新しい紙幣が登場しますし、よい年になりそうですね。

幸田 常一

<会社近況>

郡山市の現場で、住宅新築工事を先月から開始させていただきました。

また、事務所では打合せをさせていただいたり、図面や必要な書類の作成などしています。

3月🌸

3月に入りました。長く寒い冬がようやく終わり、気付けばふきのとうが顔を出していました。花も咲き始め、虫や小鳥や動物たちも動き出しますね。春が始まりましたよー♪といっているようで、うきうきしてきますね。

3月の花 「ミモザ」

黄色い小さなポンポンとした花が集まって咲く、かわいい花です。ミモザの美しい黄色は、1枝飾ってあるだけで明るい気持ちにさせてくれます。

3月の旬野菜 「新玉ねぎ」

新玉ねぎはだいたい2月～5月までと流通期間が短いので、この時期に食べておきたいですね。スーパーでこの時期よくみかけます。新玉ねぎは収穫後2～3日で乾燥処理を行わず出荷されます。水分が多く瑞々しくて辛味が少ないので、サラダとかの生食に適しているようです。色々な栄養素が含まれていますが、その中のカリウムは体内の余分なナトリウムを排出する働きがあるので、むくみを解消し血圧を下げる効果が期待できるといわれています。また、硫化アリルの栄養素により、血液が固まるのを抑制してくれる働きがあるようです。

***** ＜給気口のお掃除＞

多くの住宅では排気用の換気扇の他に、給気口が数か所備え付けてあります。忘れてしまいがちですが、たまにはお掃除が必要です。給気口にはフィルターが設けられています。色々なタイプの物がありますので説明書があれば、説明書に従ってお掃除してみてください。

令和6年 3月5日発行
有限会社 幸田建設
＜発行責任者＞幸田久美
〒969-1204
本宮市糠沢字八幡1番地1
電話 0243-44-3816

＜後記＞

外出時まぶたがチクチクする、痒い
何だろうと思ったら、花粉が付着した事による皮膚炎で痒み、赤み、腫れなどが出る
そうです。外出時はマスク、帽子の他にも
メガネが必要なのだと思いました。

(事務員k) (*_*)

昨年のNHK大河ドラマは「どうする家康」が放映されたが、徳川家康の目指すところは「戦乱なき世」を実現することであった。そして家康の目指す「戦乱なき世」は、三代将軍家光までにその礎が築かれたのであった。実に戦乱なき泰平の世は260年の間続いた。しかし、幕末に至って、尊王攘夷の嵐が吹き荒れ、その嵐が倒幕へと転じ、徳川幕府は滅びて明治時代を迎える。今回は、家康が目指した「戦乱なき世」とはどういう統治方策であったかを確認し、それが幕末にはなぜ幕府の屋台骨を揺り動かす動乱を引き起こすようになったかを紐解いていきたいと思う。荒っぽい描き方で恐縮ですが。

先ず、「戦乱なき世」とするために、家康から家光にかけてどういう方策をとったのか。1615年大阪夏の陣で豊臣秀頼を自決に追い込んで勝利を収めると、すぐ行ったのが「一国一城」の措置である。一国(藩)に城は一つとし、その他に城を持つことを認めず、取り壊させたのである。その後次々と所要の方策を講じていくのである。その方策を次に列挙してみたい。

1. 経済的優位を盤石にする

①全国に直轄の天領を保有(400万石)・金銀の鉱山及び主要港湾を直轄にする

②貨幣鑄造を直轄にする ③鎖国による貿易(長崎)を直轄にする

2. 大名間の分断策を講じる

①親藩(徳川三家)・譜代大名(関ヶ原戦い以前から臣従)と外様大名(関ヶ原戦い以後に臣従)に分断し、外様大名は幕政に参画させない

②外様大名は江戸より遠方に配置し、その監視役として直轄領や譜代大名を適宜配置した

③各大名に官位(将軍の推薦)を与えて序列を設け、大名間に身分秩序を意識させた

3. 各藩には財政支出をさせ、蓄財させぬ仕掛けを講じる

①一年置きに江戸に赴く参勤交代を義務づける ②手伝い普請(幕府の普請を代行)をさせる

4. 各大名を幕府に従わせる「武家諸法度(はつと)」を定める

①参勤交代 ②新しい城を造ってはならぬ ③勝手に城の修復や婚姻をしてはならぬ(幕府の承諾が必要) *法度に反すると改易等の処分

(注)法度としては、この外「禁中並公家諸法度」「諸宗、本山本寺諸法度」があるが、いずれも政治的動きを封じるものである。

5. キリスト教を厳格に禁教とする(島原の乱を受け)とともに、支配階級(武士)と被支配階級(百姓・町人)の身分制度を定着させ、しっかり統制した

こうして江戸時代は泰平の世となり、町人文化として元禄文化や化政文化が花開くのである。ところが後に幕府の屋台骨を揺るがすようになる動きが徳川御三家の中から起こるのである。それは水戸藩である。それは17世紀で江戸時代前半のこと。キーマンは水戸藩2代藩主徳川光圀である。水戸藩は御三家の中で石高が一番低く、藩財政は豊かではなかった。そこで光圀は農業を振興するため、藩内をきめ細かく出向き、必要な策を指示したようだ。その一方で光圀が着手したのが、「大日本史」の編纂である。なぜ「大日本史」の編纂に着手したのか。実は、光圀は若い頃中国の史書を読んで人生観が変わった体験の持ち主なのだ。光圀の願いとしては、後世を担う世代のためを思って編纂に着手したのではないか。さて「大日本史」は、歴代天皇の事績を中心にまとめている。光圀生前には、神武天皇から後小松天皇までの百代天皇の「本紀」73巻が完成している。その史書に貫かれていたのが、「尊王」の思想である。

「王を尊ぶ」というのは、日本では「天皇を尊ぶ」ことである。これが後に「水戸学」として広がる学派的礎となったのである。さらに、水戸藩では光圀亡き後も「大日本史」の編纂は続けられ、イギリス船が難破してイギリス人が無断で上陸する事件をきっかけに、「尊王」が「攘夷」と結びつき「尊王攘夷」の思想に進展する。この思想が幕末の明治維新に大きな影響を及ぼすことになるのである。

(注)「攘夷」とは、開国せず、開国を迫る異国を打ち払うこと

余談になるが、光圀はいわゆる「水戸黄門」のモデルである。黄門様のように諸国漫遊はしなかったようで、実際は藩内か江戸へ出向くことが多かったらしい。助さん・格さんも「大日本史」編纂に携わった二人がモデルになっているという。明治以降講談などで取り上げられ、人気を博するようになる。

さて、時は過ぎて幕末に話は移る。これからは、薩摩藩(現鹿児島県)の動きを中心にして「尊王攘夷」→「公武合体」→「尊王・倒幕」に至る流れを見てみたい。水戸藩で編纂された「大日本史」で唱えられた「尊王」の思想は「水戸学」として天下を憂える人々の間に徐々に広まっていった。特に、アメリカのペリー(黒船)の来航により、幕府が和親条約(1854年)に続き修好通商条約の締結(1856年)を天皇の勅許を得ずに執り行ったことを契機に「尊王」と「攘夷」とが結び付き、尊王攘夷

派の幕府批判の動きが激しくなっていく。この動きに対して、幕府（井伊直弼大老）は、厳しい弾圧を行った。安政の大獄（1858～59年）である。その後井伊大老は水戸の浪士によって暗殺される。この時点では、薩摩藩は「尊王攘夷」派ではなく、幕府の開国を支持していた。しかも、薩摩藩は外様ながら、幕府の雄藩の地位にあった。琉球を配下に置くことで特別の優位性を備えていたのである。さて、勅許問題を巡り、幕府と朝廷の間がギクシャクした関係になった。それを修復しようとして幕府側から持ち上がったのが「公武合体」論である。勿論これによって幕府の威信を回復する狙いがあった。当時幕府においても「大政委任論」が浸透していた。公武合体の具体化として、14代将軍家茂に孝明

（注）大政委任論：天皇が国家統治を将軍に委任している

天皇の妹和宮が降嫁する（1862年）。公武合体は薩摩藩としても積極的に推進した。ただ、公武合体と言っても朝廷と幕府のみの合体とするのか、これと併せて幕府・雄藩（外様）連合による新体制で合体しようとするのか意見が対立した。薩摩藩は後者であるが、幕府に押し切られ、実現できなかった。また一方、尊王攘夷の「攘夷」急進派は、長州藩を中心として朝廷を動かし、幕府に攘夷を促すまでになったが、この動きは薩摩・会津藩によって排除される（禁門の変・1864年）。実は薩摩藩は藩内の攘夷急進派も弾圧していて（寺田屋事件・1862年）、攘夷論には一貫して与しなかった。攘夷論の方もついに孝明天皇が幕府の条約締結を勅許（1865年）されてからは、下火となっていく。攘夷急進派の長州藩も下関戦争（英仏蘭米と）で敗退して攘夷の難しさを悟ったのである（1863～4年）。

では、薩摩藩と長州藩はどうして倒幕に向けて「薩長同盟（1866年）」を結ぶことになるのか。長州藩は京を追われ、朝敵とされ、2次に亘って幕府の征討を受け（1864・66年）、藩論は反幕府に傾いていった。一方薩摩藩は、攘夷論に与せず、公武合体を推進するも、幕政改革の提案（雄藩参加の参預会議）が幕府に受け入れられないで、藩内に反幕府の過激論が出始めた。そういう中で、仲介する人もあり、薩摩は2次長州征討に参加せず、長州の軍備調達を支援するなど両者の信頼関係が培われ、「薩長同盟」に漕ぎ着けることになる。ただ締結書類が残っていないので、倒幕についてどこまで共通認識があったのかは定かではない。つまり、どういう方法・手順で倒幕にまで持っていくかである。しかし、西の雄藩である2藩が手を繋いだことは大きい。これは幕府の大政奉還の1年前である。

年が変わって1867年の1月のこと、孝明天皇が崩御された。明治天皇が14歳で即位された。こういう状況下で5月に、薩摩藩主導で朝廷と幕府の諮問機関として「四侯会議」を設置されたが、一度も開催されずに消滅した。幕府に代わって雄藩連合による公武合体を画策したのであったが、15代将軍慶喜に阻まれてしまったのである。その頃朝廷も倒幕派より佐幕派が強く、慶喜への信任も厚く、公武合体の政権は佐幕派の朝廷と会津藩と桑名藩が将軍慶喜を支える幕府との間で確立していたのである。あくまで幕府が政治の実権を握っていた。つまり、薩摩藩は朝廷から遠ざけられてしまったのである。その薩摩藩がどのようにして朝廷を動かすまでになるのか。それはその頃下野していた岩倉具視との関係を密にしていたのである。岩倉具視は孝明天皇の近習として政治力を発揮していたが、情勢の変化でやがて排斥され、下野していた。その岩倉が薩摩藩の大久保利通や長州藩の品川弥二郎らと連絡を密にして政治の舞台に再び登場するようになり、朝廷を動かす要となる。そして岩倉が主導して、朝廷から「倒幕の密勅」が薩摩藩と長州藩に下されることになる（11月9日）。岩倉は慶喜がいる限り幕府が政治の実権を握り、天皇を中心とする政治体制はできないと考えていたのである。ところが、倒幕派の動きを察知した土佐藩の進言を受け入れ、慶喜は密勅が下された同日に、朝廷に「大政奉還」を申し出た。朝廷は大政奉還を受理せざるを得ない。そこで朝廷は倒幕を延期する旨の沙汰書を両藩に発した。

大政奉還がなされた後の動きはどうなったか。慶喜の腹の内としては、先ずは内乱を避けたいというのはあったかもしれないが、大政奉還されても朝廷の側にその対処能力がないので、幕府が政治的実権を握っていられるだろうと思っていたのではないか。それを裏付けるように一向に「辞官納地」に応じる動きを見せなかった。大政奉還は白紙になってしまった感がある。そこで、岩倉と大久保は、慶喜に「辞官納地」させ、政権の座から追い落とす策を練るのである。「王政復古の大号令」と天皇を中心とする新政府の発足である。1868年1月3日、明治天皇の勅令が発せられた。岩倉を中心とする討幕派公卿と薩摩藩を中心とする5藩によるクーデターともいうべき企てであった。この勅令を受けて、慶喜はついに「辞官納地」を承諾し、徳川幕府は消滅することになった。これで武力倒幕は無くて済むかと思われたが、そうはいかなかった。会津・桑名藩をはじめ佐幕勢力は存在していた。薩摩藩の挑発もあり、1月26日に新政府軍と会津・桑名藩軍が武力衝突し、鳥羽伏見の戦いから戊辰戦争へと突入するのである。そして8月、佐幕派の主力であった会津藩が新政府軍に降伏するに至り、9月には改元されて慶応から明治へと、新たな時代に移行するのである。

磐梯山、蔵王・アイスガーデン・刈田岳

(百：日本百名山、◎：日本二百名山、○：日本三百名山、カッコ内の数字は標高)

【今回登った山】

磐梯山 (百、1816m)

蔵王・アイスガーデン (刈田岳の麓 仙人沢、高さ約 30m、幅数十 m の滝が凍った氷瀑)

刈田岳 (蔵王連峰の一つ、1757m。主峰は熊野岳 1841m・百)

○磐梯山

2月12日 (月)

1月末に20数年ぶりに再会し、雄国山山行を共にしたNさんと再び同行し、磐梯山に登ることにした。数日前から天候が良くなかったが、最終的には現地・登山口で判断することにし、悪ければイエローフォールで引き返すことも念頭に置いた。

雄国山の時と同じ猪苗代道の駅7時集合とした。6時過ぎ自宅発、6時半過ぎ道の駅に着いたらすぐにNさんもやってきた。自分の車に乗って貰う。

登山口の裏磐梯スキー場にはすでに10台くらい停まっていた。曇りだがしだいに良くなるという予報を当てにし、まずはツボ足でゲレンデを7:30出発、まだ動いていないリフトの左側の端を登って行く。圧雪車に踏み固められて歩きやすい。先行者は左の樹林と銅沼(あかぬま)への分岐を直進したが、自分たちは暖冬のため銅沼が凍結していないかもしれないので、少し休んで左側の樹林の中に入って行く。8:10。

若者の下山者とすれ違い、話したら、山頂まで行っての下山とのこと。冬の磐梯山を往復5時間もかからずに登下降するとはすごいことだ。

樹林の中を小さくアップダウンを繰り返しながらしだいに登って行く(写真次頁上左)。イエローフォールには帰りに寄ることにして、尾根道を登って行く。登山道両脇の逆U字型の金具の頭が雪の上に出ていた、今年は雪が少ない。しだいに急斜面になる。右手の稜線、天狗岩の上に青空が出てきた(写真次頁上右)。数グループが登っている。少し緩やかな広めの、邪魔にならないところでアイゼンを着ける。

尾根道を登り切り稜線に出る。標識のある櫛ヶ峰との分岐で休憩する。予報通り青空が広がってきた。山頂の雲が流れ去ろうとしている(写真2段目)。山頂を目指し出発、風がしだいに強まる(写真3段目)。



10 : 40、弘法清水小屋着、小屋から山頂を望む（写真次頁上）。



いよいよ最後の登り、下から吹き上げる横殴りの風が強く手がかじかんでくる。やはり量販店の 1500 円の作業用防寒手袋では持たない。動きを止めないで山頂着 11:20。山頂の方が過ごしやすい。山用の防寒手袋に交換する。



山頂の社が雪をかぶっている。Nさんと互いに写真を撮りあう。お菓子を貰い、水分を補給する。若い小柄な女性と話す。横浜から、磐梯山に初めてきたとのこと。初めてが冬の磐梯かよ、と思う。いろんな冬山をやっているのだろう。



西側の猫魔ヶ岳スキー場。飯豊連峰は雲の彼方。



東側櫛ヶ峰右奥に安達太良連峰。



北方左側に檜原湖、中央付近が結氷していない＝ワカサギの穴釣りができない。

小野川湖や秋元湖も見える。西吾妻山、グランデコスキー場は雲の中。

眼下に猪苗代湖が輝いている

11：40 下山開始、順調に下り、イエローフォールに寄る（写真下右）。



銅沼から振り返る（写真下）。ヨーロッパアルプス

のようで好きな景観だ。Nさんもステキステキと喜んでいた。

スキー場グランデ右端を下り、14：35 駐車場着。約7時間の磐梯山山行を無事終える。 前回の雄国山の時と同じ、幸楽苑でラーメンを食べ猪苗代道の駅から各自帰宅。



○蔵王、仙人沢氷瀑・刈田岳

2月17日（土）

Nさんと同行した12日の磐梯山登山の道すがら、Nさんが前の週に行った蔵王刈田岳のモンスター（樹氷）と氷瀑は是非お勧めだと話していたので、単独で行ってみた。

自宅を6時過ぎ出発。東北中央道を山形県上山市かみのやま温泉ICで降り、蔵王ライザワールドを目指す。8時に着くがすでに広い駐車場には50台くらい停まっていた（写真下左）。リフトの運行が8:30、チケット売り場には多くの人が並んでいた（写真下右）。

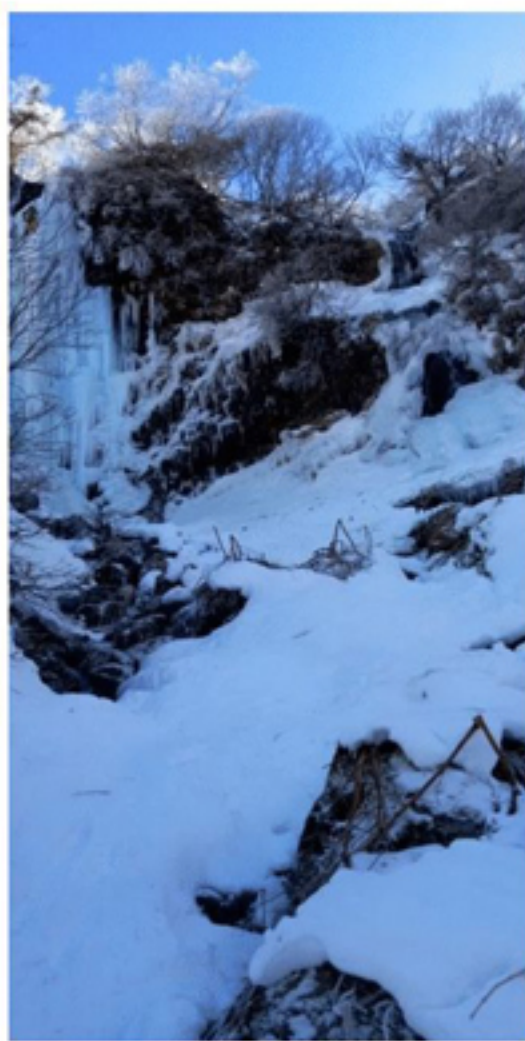
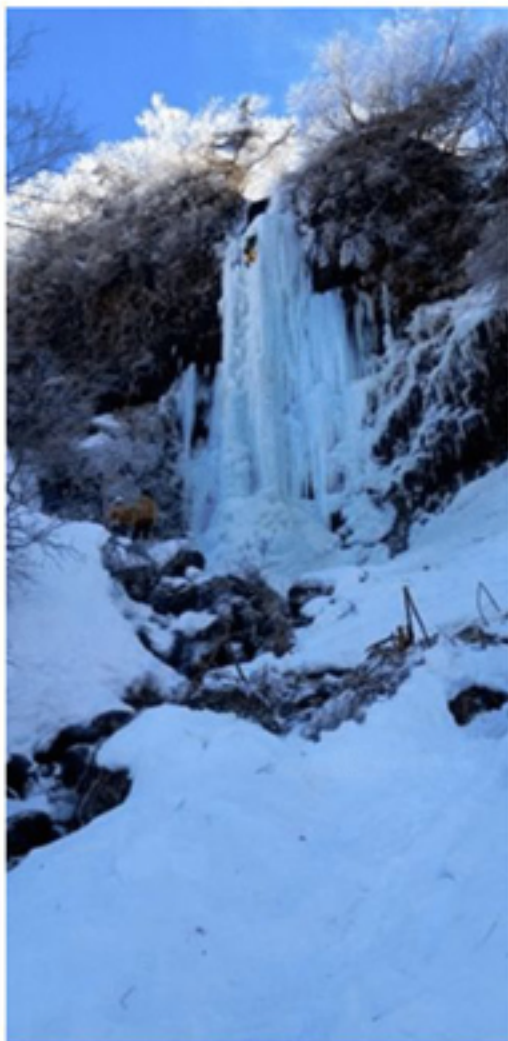


ほとんどの人が登山者のようだ。2本目のリフト乗り場（写真上左）。

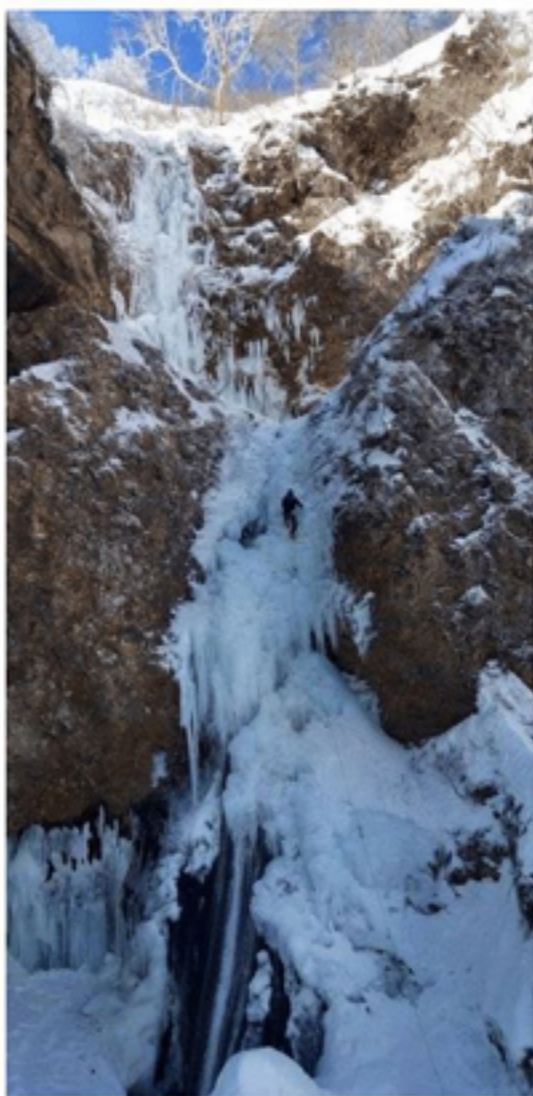
2本のリフトの終着点（写真上右）。スキーは右に行き右に下る。刈田岳に向かうのは右に行き左に登って行く。仙人沢氷瀑は左に下って行く。10人ぐらいの、ガイドさんが案内するグループがアイゼンを装着していた。9時前、自分もアイゼンとヘルメットを着け出発する。樹林帯の急斜面を慎重に下る。



30分くらいで着。感動!!アイスガーデンだ!!
氷瀑は横幅があり、一枚の写真には収まらない。



アイスクライミングをしているグループがいた（写真上左）。上部に黄色のウェアで氷に張り付いているのが分かりますか？ 氷瀑の全体のイメージは上の三枚の写真。



上の右側の写真のさらに右の氷瀑では下っている人がいた（写真左）。分かりますか？

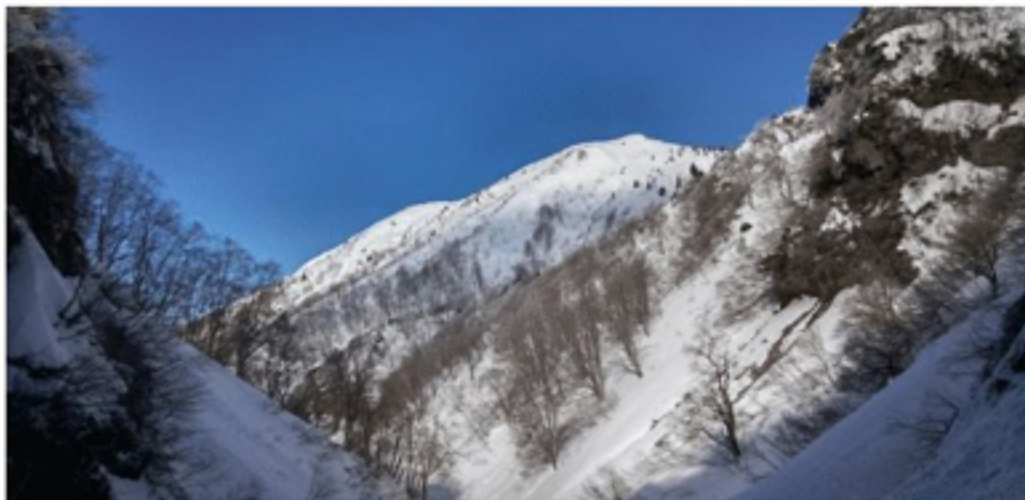


近づいてみる（写真左から次頁）





氷瀑の中に入ってみる。つららの間を通り抜けようとしたが塞がっていて抜けられなかった。下流の山に朝日があったっていたが(写真下)、この氷瀑には地形的に日が当たらないようだ(?)。

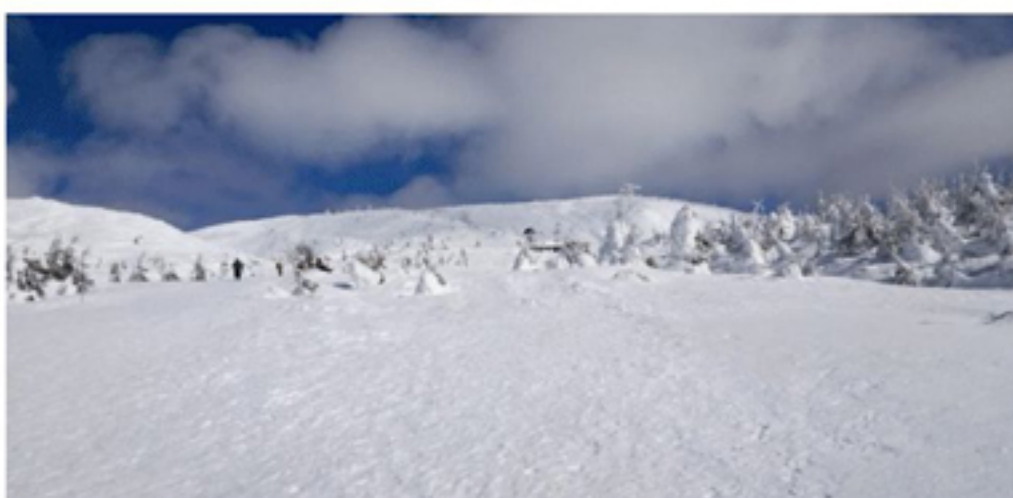


十分堪能し、勧めてくれたNさんに感謝する。10時前出発、リフト終着点に登り返す。

少し休み刈田岳に向かう。



モンスターが溶け始めている。



刈田岳上部。稜線中央右が山頂の刈田嶺神社。



山頂の刈田嶺神社と鳥居、
稜線は風が強い。



近くの人と写真を撮りあう
山頂着 12 時。
雲で遠望はきかない。



写真左の大きな建物は刈田
岳山頂レストハウス閉鎖中。
風を避けるためレストハウ
スの陰で立ったままパンを
食べ水分を補給する、寒い。
熊野岳に向かう人もいる。



蔵王の御釜。写真中央、
黒っぽい斜面の下。
12 : 30、下山開始、スキー
場の左端を麓までアイゼ
ンのまま下る（リフトは下
りは使えない）。

約 5 時間半の蔵王・仙人沢氷瀑アイスガーデン・刈田岳山行を無事終える。冬
のレパートリーが増えて嬉しい。来年も行こうと思う。

令和 6 年 3 月 NO 1 2 4 アンチ・エイジング 山旅遊人